

Civilian Session

市民セッション

November 12 (Saturday)

11月12日（土）

Discussion with Pupils and Townpeople
10:00-12:00

市民ディスカッション
10:00-12:00

Lecture Room(D204):Graduate
School Building in Honjo Campus

講義室(D204):本荘キャンパス大学院棟

Chair:Prof. Nobuo Takeuchi
Akita Prefectural University

座長:秋田県立大学
教授 竹内 伸直

Panelists:

Prof. Tomofumi Sumita
Prof. Masao Kasai
Prof. Yoshihisa Anazawa
Associate Prof. Kenichi Hasegawa
Assistant Prof. Shigemitsu Shuchi

Akita Prefectural University

パネリスト

教授 住田 友文
教授 笠井 雅夫
教授 穴澤 義久
助教授 長谷川 兼一
講師 須知 成光

秋田県立大学

トリレンマ問題について

経済発展と資源・エネルギー、そして環境の相反する面を持つ3つの問題に同時に直面しなければならないというのがトリレンマと言われるものです。例えば経済発展について考えてみましょう。人類の大きなリスクの1つに貧困があります。発展途上国と先進国の平均寿命を比べてみてください。平均寿命の違いは貧困と強い関連があると考えられます。省資源や環境保全にのみ目を向け過ぎ、経済発展を犠牲にしたらどうなるのでしょうか。発展途上国の貧困は減りません。それどころか、技術は環境保全や省エネにも大いに貢献していますが、そういう技術の開発にも支障が出る恐れがあります。また、過去の歴史は、経済的にゆとりができるほど環境保全にもお金をかけるようになることを示しています。経済発展を過度に犠牲にすると、その結果、環境保全も省エネも進まないという状況が発生する恐れも考えられます。

また、話題のCO₂排出削減については、日本排出量が90年に比べて増加していることを考慮すると、京都議定書で定められた90年比6%の削減を達成するためには、現在の排出量のおよそ13%程度の削減を達成しなければなりません。風力発電や太陽光発電などの自然エネルギーのみで、何処まで削減出来るのでしょうか。具体的な計算をしてみませんか。自然エネルギー利用には、どのような問題点を考慮しなければならないのでしょうか。残念ながら、現在のところ、トリレンマを解決する妙案が見付かっているとはいえません。でも、解決方法を一緒に模索してみませんか。

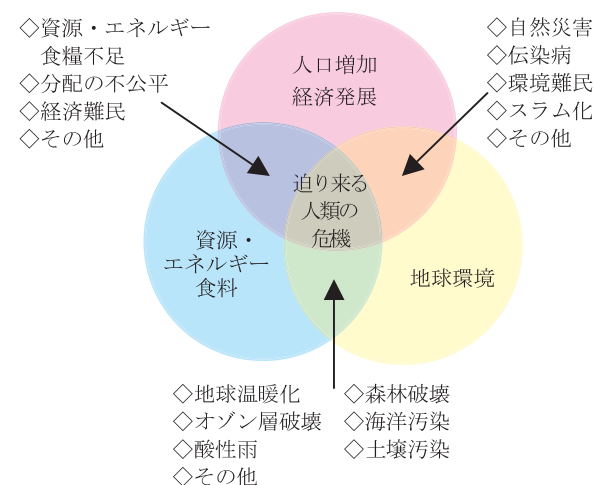
討論テーマ：経済・資源・環境のトリレンマ

概要

現在、化石燃料の消費による地球温暖化が話題となっています。また、最近では、原油価格の高い状態が続いており、ガソリン価格や灯油価格が値上がりしています。これらの問題の中に、経済、エネルギー資源および地球環境の関係を垣間見ることができます。「経済の発展」、「資源・エネルギーの確保」、「環境の保全」のトレードオフの関係をトリレンマと呼んでいます。21世紀にはこのトリレンマを克服し解決することが不可欠です。そのためには、物事を感情で判断するのではなく、正しい知識に基づいて広い視野に立ち多面的に物事を捉えるシステム思考が重要となります。

本市民ディスカッションは、専門家の講演や討論とは別に、小中高生および市民の皆様の目からトリレンマを考える機会を作り、エネルギー、省エネ、環境問題などで日頃から持っている疑問に対する質疑応答を通じて、システム思考を体験してもらう事を目的としています。

トレードオフ：一方を立てると他方が立たないこと。



トリレンマの構造

(次世代エネルギー構想、電力中央研究所編より)